

令和3年度 第1回 福井鉄道福武線活性化連携協議会 議事録

日 時： 令和4年2月3日（木） 10：30～11：30
場 所： 福井市企業局庁舎5階 大ホール
出席者： 別紙出席者名簿のとおり
資 料： 別紙資料のとおり

開会

1 会長挨拶

2 報告事項

規約第8条第2項により、座長が会議の議長となって議事が進行された。

報告（1）福井鉄道からの報告について

福井鉄道から説明（報告（1）資料参照）

〈質疑応答〉

意見がないことを確認し、報告（1）終了。

報告（2）福武線再建スキーム管理部会について

再建スキーム管理部会事務局（越前市）から資料説明（報告（2）資料参照）

〈質疑応答〉

意見がないことを確認し、報告（2）終了。

報告（3）福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画主要施策進捗状況について

事務局（福井市）から資料説明（報告（3）－1、2資料参照）

〈質疑応答〉

○オブザーバー

資料のスライド3ページの一番下「電車内での運賃QRコード決済の導入」についてですが、イメージがあればどのようなものか教えていただきたい。また、導入するシステムについては、えち鉄、バス、並在で共通に使えるものにしていただきたい。

○福井鉄道

QRコード決済は他県の長良川鉄道等複数の事業者で導入されており、利用者がQRコードを読み込み、降車時に決済を行う仕組みである。コロナ対策にもなることから、今後、駅だけでなく色々な場面で、キャッシュレス化を進めていきたい。また、バス事業者、えちぜん鉄道等と共通で使えるシステム導入に向けて前向きに協議を進めていきたい。

他に意見がないことを確認し、報告（3）終了。

報告（4）国への要望の実施について

事務局（福井市）から資料説明（報告（4）資料参照）

〈質疑応答〉

○オブザーバー

国に対し、車両の検査費用の要望が出されているが、全てに配分することは困難な状況である。ただ、補助制度を活用できないかということで現在様々な補助制度の作成にかかっているところである。補助事業の当てはめについて、担当である運輸局に具体的な提案を問い合わせただければと思う。

他に意見がないことを確認し、報告（4）終了。

協議（1）福井鉄道交通圏地域公共交通計画の策定について

事務局（福井市）から資料説明（協議（1）資料参照）

〈質疑応答〉

意見がないことを確認し、協議（1）終了。

その他（1）今後の支援について

その他「(1)今後の支援について」（福井鉄道から発言(資料なし)）

福井鉄道福武線の運行について、平素より格別のご支援をいただき厚くお礼申し上げます。現在の行政からの支援スキームは、「福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画」に基づき、平成30年度から令和4年度までの5年間において、鉄軌道の設備投資及び維持修繕等に対し、福井県および福井市、鯖江市、越前市より支援をいただくとともに、利用促進の取組みについても協力いただいております。また、一昨年からの新型コロナウイルス

感染症拡大に伴う影響に対する運行支援についても重ねてお礼申し上げます。

福井鉄道では、この5年間大きな事故もなく、行政支援のもと安全で安定した運行やお客さまへのサービス向上に努め、沿線住民の皆様をはじめ多くの乗客の皆様のご支持を賜りながら地域の足として、ご利用いただいた。

令和6年春には北陸新幹線が開業される。当社もそれを契機として観光電車や貸切電車の運行等による観光需要の取り込みなどで乗客の増加を図るとともに、今後も、安全で安定した運行の継続やサービス向上に努め、通学・通勤などの移動手段として、市民生活に不可欠な公共交通機関としての役割を果たしていく所存である。

鉄軌道施設や車両など施設は年々老朽化が進み、施設の維持には多額の費用を要し当社の収益だけでは安全な運行の確保が困難な状況となっており、令和5年度以降も引き続き行政支援をお願いしたい。

○委員

利用者について、新型コロナの影響でなかなか戻らないことや、新幹線の開業後、並行在来線の運営も開始されるなど、公共交通を取り巻く環境が大きく変化している状況である。一方で、福井鉄道は沿線3市の住民にとって、日常生活に欠かすことのできない存在であり、残していかなければならない鉄道だと考えている。

令和5年度以降についても、引き続き、県と沿線3市で支援スキームについて検討していきたいと考えているので、よろしくをお願いしたい。

○委員

令和6年春には、北陸新幹線福井・敦賀開業し、並行在来線の運営もスタートする。人口減少が進む中、未だコロナウイルス感染症拡大の影響もあり、利用者数が戻らない状況で、鉄道事業を取り巻く情勢は、平坦ではないが、福井鉄道福武線が通勤・通学や買い物など、住民の日常生活に欠かすことのできない重要な移動交通手段であるとの認識は、今後も県と沿線3市でしっかりと共有していくべきと考えている。

令和5年度以降の福武線の支援のあり方につきましては、これから十分に県と沿線3市で協議していきたい。

・

○委員

福井鉄道福武線は地域住民の通勤・通学に欠かせないものとなっている。福武線に対する支援は開始から14年を経過し、公共交通事業者の支援という目線だけでなく、住民目線で公共交通機関を考えなければならない時期を迎えている。このため、次期計画及び支援スキームについて、どう支援していくかを県、福井市、鯖江市とともに新たな視点も踏まえて検討を進めていきたい。

○委員

福井鉄道福武線は、コロナ前は年間 200 万人が利用する県民にとって必要不可欠な公共交通機関であると認識している。これまでも厳しい経営状況にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響によりさらに厳しさを増している。県としてはコロナの影響による減収に対して、国の交付金等も活用し、できる限りの支援をしている。

2 年後の北陸新幹線の開業は、100 年に 1 度のチャンスである。着実に利用促進に結び付けていかなければならない。次期計画においては、新幹線開業に向かって、観光部局との連携等も視野に入れていく必要がある。日常利用に加え、観光利用の面も検討して、ぜひともこのチャンスを活かしていかなければならない。

事業連携については、現在も様々な効果を出しているが、並行在来線が立ち上がれば、よりいっそうコスト削減等の視点が重要になる。我々も事業連携の取り組みに積極的に参加していきたいと思っている。QR コード決済のような、新たなアプリやソフトを導入するにあたっては、それぞれのプラットフォームは少ない方が良いと思う。プラットフォームを共通化することで、各々で導入するよりもコスト削減できる。そういった視点を持ちながら考えていくことが重要だと思う。

県としては、今後の支援の議論に積極的に参加していくので、沿線 3 市も福井鉄道をしっかり支えていく気持ちを持っていただきたい。

○座長

支援について、県、沿線市町で協力し是非お願いしたい。観光とかデジタル化についての視点からも協議を進めていただきたい。

意見がないことを確認し、協議（2）終了。

その他、特に意見等がないことを確認し、終了。

閉会